

5年 国語科	一つの言葉から	5年①
目標	言葉と言葉のつながりを意識し、表現を工夫し自分が表したいことが伝わる詩をつくることができる。 (書く能力)	
使用したICT機器類・教具等	大型テレビ 実物投影機	
思考ツール・プログラミング	フローチャート マインドマップ	

◆プログラミング的思考とのつながり

- ・マインドマップを使って言葉の関連づけをし、フローチャートで手順を可視化する。

◆授業の実際

1 フローチャートを見て、手順を確認する。

- 拡大したフローチャートの手順を見ることで、学習内容の見通しをもてるようにした。

2 集めた言葉を使って短い文を作る。

- マインドマップの言葉の中から強くひかれた言葉に印をつけて、印をつけた言葉に関連づけたり、肉づけしたりしながら短い文を作っていた。
- 前時までには、表現の工夫（比喻や反復、倒置など）について学習したため、それらを使って表現豊かな文が作れないか考えることができる子もいた。
- グループ内で発表することで、友達の作った文を聞いて、「こういうふうに言葉と言葉をつなげればいいんだ」というように、言葉のつなげ方や表現の工夫を学ぶことができた。

3 作った短い文をつなげて詩をつくる。

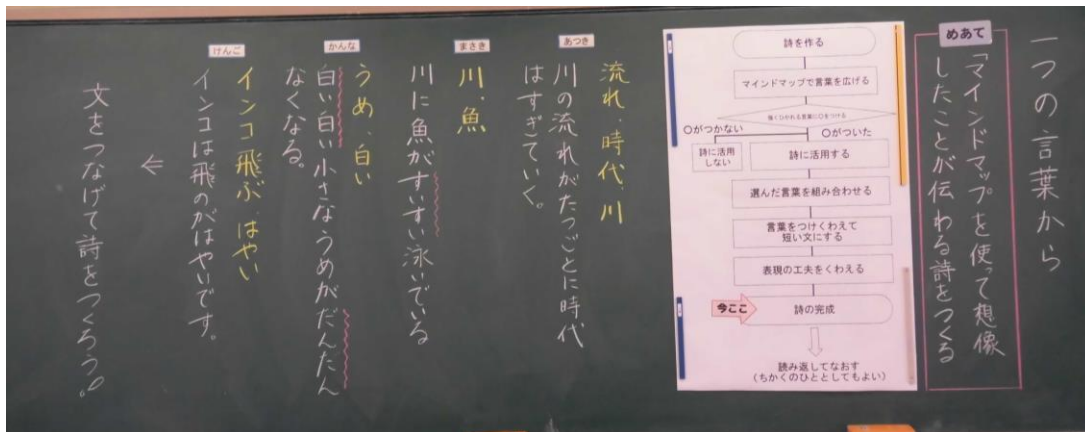
- 文を組み合わせながら、短い文をどの順番で使うのかを考えた。表現の工夫も取り入れて詩を完成させていった。
- 授業を始める前は、詩をつくることはとても難しいと述べる児童が多くいたが、フローチャートにしたがって進めることで、完成を目ざして取り組むことができた。



[マインドマップを活用して、短い文をつくる]



[つくった詩を発表する]



◆実践を通して

- ・**フローチャート**で**手順**を**可視化**し、授業を行ったことで、見通しをもって試行錯誤しながら詩の完成を目指すことができた。
- ・**マインドマップ**を活用することによって**言葉と言葉を関連づけ**したり、組み合わせたり、より味わいのある表現はないか考えたりしながら詩をつくることができた。